

朗読の森の朗読会

2つの人情ばなし“罪と罰”

2022年10月30日 日 14時～15時(予定)

出演者：朗読の森／ 岡崎ちか子 千種佐智子 嶋垣泉

せみさん朗読会／世弥きくよ

音楽：朗読の森／福谷紀美子

観覧
無料



笑って泣ける盗人たちの話『花のき村と盗人とたち』と、近代文学より『高瀬舟』。“罪とは、人の情とは”と考えさせられるまったく趣の違う2作品を音楽とともにお楽しみいただきます。今回は音楽も楽しんでいただき、ゲストに「せみさん朗読会」の世弥きくよ氏を迎えました。

『花のき村と盗人たち』(35分)

作：新美南吉

花のき村に5人の盗人がやってきた。彼らのかしらは以前から盗みを重ねていた本当の盗人であったが、ほかの4人は盗人になりたての者であった。根が善良な弟子たちは、盗人としてはまるで役立たない。それぞれ大工や鋳掛屋、角兵衛獅子、錠前屋など以前に就いていた職人としてのくせや根性が出てしまい、村に入っても金持ちの屋敷の建築の見事さに見入ったり、老人の奏でる笛に聞きほれたり、錠をしていない村の倉の様子に嘆いたり、壊れた釜の修理を請け負ってしまう。一方、かしらの目の前には子牛を連れた少年が現れた。少年は初めて会うはずのかしらに気安く子牛を預けると、そのまま遊びにいつってしまった。盗人として周囲から忌み嫌われていたかしらは、初めて人から信用された嬉しさに、思わず涙を流してしまう。

『高瀬舟』(25分)

作：森 鷗外

高瀬舟は京都の高瀬川を上下する小舟である。徳川時代に京都の罪人が流刑を申し渡されると、罪人は、高瀬舟にのせられて、大阪へ回された。いつのころであったか。これまで類のない、珍しい罪人が高瀬舟にのせられた。名を喜助といった。護送を命ぜられ、一緒に舟に乗りこんだ同心の羽田庄兵衛は、ただ喜助が弟殺しの罪人だということだけをきいていた。庄兵衛は、喜助の他にたくさんの罪人を高瀬舟に乗せたことがあったがみな目も当てられないほど気の毒な様子だった。しかし、喜助はいかにも楽しそうだった。不思議に思った庄兵衛はわけを聞いてみた。そのわけに庄兵衛は考えさせられ真摯な喜助の姿になんとも言えない気持ちにさせられる…



お申込

2022年10月2日 日 14:00より お電話にて ☎03-3676-9071
※インターネットでもお申込みいただけます。(QRコードより)

お申込用QRコード



会場

しのぎ文化プラザ 3階講義室

定員

40名(申込順)

※小学生以上対象
(小学生は保護者同伴)

主催 しのぎ文化プラザ